なる個物が生ずるかの如き問題は本書に於て解明してないやうであるが、本書當分の目的たる諸問題に就いては著者の主觀が時として挿入され、スピノザから若干離れて、やゝ自由に解釋してあるかの如く感ぜられるやうな場合もあるけれども、廣く諸文献を渉獵し、彼此校較して是非を分ち、平明流暢な文章を以て、繁に失せず、簡に流れず、著者の沈潛思索した結果を披瀝してある　スピノザに關する邦文著述の少い我が哲學界に取つて歡迎さるべき好著作であらうと信ずる。(高橋紹介、理想社出版部刊行、菊版二二二頁、定價一圓九十錢)

デイルタイ論文集　栗林　茂譯

本書はデイルタイの著作「ヘーゲル青年時代史」の第一章「最初の開展と神學研究」と、一九一一年五月の雜誌ドイツチエ＝ルントシャウに載つた「ニーブールの歴史的世界觀の起源」と、一八八六年八月の講演「詩的想像力と狂氣の三篇を譯したものである。「豐富な歴史的形態に對する非常に鋭敏な感覺を持つて居り、精神の種々の領域に於て嘗て生きてゐた種々の時代の生命を源泉から再び現在化し、新たに生かすことが出來た」と評されるデイルタイ、ヘーゲル以後の最大なる精神史家たるデイルタイの歴史家としての一面は前の二篇によつて窺はれ彼れの文學論の一斑を後篇によつて窺はれうるであらう。譯文は平明であり、固有名詞その他外國語の發育の表記は、出來るだけ原語に近いやうに苦心してある。(丸善株式會社發行、菊版一一八頁、定價一圓三十錢)

寄贈圖書

哲學とは何か　デイルタイ・フツセアール・シエーラー著
戸田三郎・坂田德男・三木清共譯
東京市　鐵塔書院發行　定價二圓三十錢

哲學　第六輯　三田哲學會編
東京市　丸善株式會社發行　定價一圓八十錢

寄贈雜誌新聞

哲學雜誌	昭和五年三月	第五一七號
社會學徒	同　三月	第四卷第三號
大谷學報	同　三月	第十一卷第一號
商學討究	昭和四年十二月	第四冊下
基督教研究	昭和五年三月	第七卷第二號
信濃教育	同　三月	第五二一號
精神科學	同　三月	第五卷第一號
丁酉倫理會講演集	同　三月	第三二九輯

眞宗研究　同　三月　第三〇號
教育問題研究　同　三月　第四四號
生理學研究　同　三月　第七卷第三號
願　悲　同　三月　第九年第三號

帝國大學新聞　昭和五年三月三日

昭和四年度卒業論文題目

○哲學專攻

認識とその對象との關係について（Palagyi の Einheitslehre を中心とせる一考察）　小林正文
ディルタイ精神科學論の基礎概念としての「了解」について　河村卓
ヘーゲルの歴史哲學　傳田恒夫
カウザールアンチノミーと直觀的悟性　脇本克巳
意識の基礎（フイヒテ斷片）　伊達四郎
先天綜合判斷について　山田次郎
「體驗及びその客觀化」としての歴史　船山信一
ベルグソンの直覺說　前川勘夫
プラトン哲學に於ける三つの道　森瀧市郎
ヘーゲル哲學に於ける Selbstbewusstsein に就いて　太田哲三
形態と目的―形態說の備忘錄から　坂田德男
Existenzialismus と Ideal-Realismus　佐々木勳
内容、作用、對象　下程勇吉
スピノザの「神に對する知的愛」　田中勝郎
圖式論の解明を中心として　脇坂光次

○西洋哲學史專攻

プラトンのロゴスとクリトン篇　風早徹
フイヒテの知識學に就いて　多田文圭
神について　植木吉英
カントの認識論に於ける先天的綜合的判斷　青木種乎
獨逸唯心論に於ける三卽一の絕對者考　飯田隆二
プラトン哲學に於けるエロースとヌース　三井浩
パルメニデスに於けるあるもの　水野康治
プラトンのメトロンに就いて　難波浩
ヒレボス篇に就いて　太田和彥
カントの第一批判に於ける範疇の客觀妥當性に就いて　小島修
ラスクの理論について　下村大
Erkenntnisgehalt und Erkenntnisgegenstand (Grundproblem der Erkenntnistheorie)　竹下預
カントの悟性　津田雲溪

○支那哲學史專攻

尙書に見えたる天の考察　大里好一
繫辭傳に就いて　木村英一
老子哲學の一考察　白井啓三
荀子經說考　常盤井賢十

○心理學專攻
青年心理の理解への道　喜多重俊
ヴントの意志説　黒田利平
兒童精神發達の見地からの繪畫　西原義廉
社會意識の心理學的考察　大田亮順
本能と社會　東郷豊治
リボーの創造的想像論　常磐井堯祺

○倫理學專攻
Kant の意志自由に就いて　永崎徹
政治論の倫理學的考察　吉川勇
カント倫理學に於ける自由及道德律の思想に就いて　木村仁明
Kant 倫理學に於ける自由について　三原宣雄
批判主義に於ける意志自由の問題　中林嘉太郎
Spranger の倫理に就て　小關伊太郎
國家の倫理　大路松郎
道德の先驗性と歷史性に就いて　坂田吉雄
意志の自由―特にカントに於ける　津田春次郎

◇教育學教授法專攻
ナトルプ社會的教育學の理念　大西貞一
宗教的信念と西洋教育學　磯部辰雄
プラトンに於ける愛、想起及對話的方法の教育的意義並にその相互關係　石山俊平
個人の人生觀と教育の純粹性について　伊藤正雄
デューイの教育説　木股勝美
他我體驗と教育作用　松田健
シュライエルマッヘルの教育學に於ける諸問題（特に自己活動に就て）　中島萬朶
文化教育學の基礎概念としての心的生の構造について　大石三郎
ケルシエンシュタイナーの勞作學校思想　土家良夫

○美學美術史專攻
ヒルデブラントの「形式の問題」を中心として　蓮實重康

○宗教學專攻
歷史哲學についての若干の考察　甘粕石介
デツバミンの基督教神觀　金宗洽

○社會學專攻
階級鬪爭論考（主として Staudinger 説について）　伊藤德則
慣習の社會學的考察　木村孝一
マクイヴアーの國家論に就いて　大田金次郎
Max Weber の理解社會學の方法（Idealtypus 論を中心として）　重松俊明

○佛教學專攻
明末智旭の願生思想に就て　小宅鳳信
三帖和讃に現はれたる他力教に於ける宗教的意識の始終に就いて　由上正道